

第1回 令和3年度使用 中学校教科用図書審議会

日時：令和2年6月30日（火）

17時58分～20時00分

場所：文京シビックセンター20階

教育委員会室

文京区教育委員会

令和3年度使用中学校教科用図書審議会（第1回）会議録

日時：令和2年6月30日（火）17時58分～20時00分

場所：文京シビックセンター20階 教育委員会室

「出席」	委員	長	小 椋 孝
	委員	員	石 原 絵 里 子
	委員	員	松 田 大 悟
	委員	員	吉 江 信 貴
	委員	員	鈴 木 洋 子
	委員	員	吉 村 達 也
	委員	員	宮 入 祥 郎
	委員	員	杉 浦 芳 則
「幹部職員」	教 育 長		加 藤 裕 一
	教 育 指 導 課 長		松 原 修
「事務局」	主 任 指 導 主 事		山 岸 健
	統 括 指 導 主 事		二ノ宮 正信
	指 導 主 事		子 野 日 芳 和
	指 導 主 事		林 修 也

○ **担当** 定刻より前ではございますが、委員の皆様がおそろいになりましたので、ただいまから「令和3年度使用中学校教科用図書審議会」第1回を始めさせていただきます。

前半の進行をさせていただきます教育指導課の子野日と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、配付資料の確認をさせていただきます。

資料の1枚目、会次第の下に資料の一覧をお示ししております。御確認いただきまして、不足等がございましたらお声かけいただければと思います。会の途中でもお声かけください。

また、教科用図書審議会委員名簿につきましては、採択終了まで時限秘となりますので、本日の会議終了後、回収させていただきますと存じます。御協力、よろしくお願いいたします。

次に、審議会委員の委嘱を行います。

本来であれば、加藤裕一教育長より、委員の皆様お一人ずつに委嘱状をお渡しすべきところではございますが、進行の都合上、机の上に置いてございます。大変申し訳ございませんが、御容赦ください。

続きまして、加藤教育長より審議会への諮問をいたします。

○ **教育長** それでは、お手元にある資料の2枚目に諮問文がありますので、こちらのほうを読み上げる形で諮問とさせていただきますと思います。

文京区立中学校教科用図書採択に関する資料の作成及び審議について（諮問）

文京区教育委員会の教育目標実現に向け、令和3年度から文京区立中学校で使用する教科用図書の採択を、公正かつ適正に行うため、次の事項について諮問します。

（諮問内容）

文京区立学校教科用図書採択実施要綱及び文京区立学校教科用図書採択実施細目で定めた「採択の方針」に沿って、中学校の教科用図書を調査研究のうえ、審議し、その特徴を明らかにする。

以上になります。どうぞよろしくお願いいたします。

○ **担当** 続きまして、加藤教育長より御挨拶を申し上げます。

○ **教育長** 引き続き、御挨拶させていただきます。

まずは、お忙しい中、今回の委員を引き受けていただきましてありがとうございます。

今回皆様には、令和3年度、来年度から使用する中学校の教科書の審査をいただくということになるわけですが、学校では新型コロナウイルスの影響で、3月から休校を余儀なくされております。このウイルスにつきましては、学校だけではなくて社会に大きな影響を与えて、この新型コロナウイルスの後、アフターコロナについてはこれまでと違ったものとなっていくと言われております。

また、国際社会では、アメリカあるいは中国、そういったところをはじめ様々な国の中で緊迫な状況、流動的な状況があります。

さらに言えば、未来に目を向けますと、それほど遠くない将来、A Iや通信技術の発達によって社会システムの変更やそれに伴う職業の変化も言われております。

子供たちは、これらの困難を乗り越えて、流動的な社会の中で生きていくこととなります。中学生の時期は、そのための準備として非常に大切な時期であると考えております。

新しい教科書の選定に当たりましては、こうした困難な社会を乗り越えられる力をつけられるよう、学指導要領、文京区教育委員会の教育目標の実現を図ることを基本とした上で、さらに子供たちの学習意欲を引き出すことや、確かな学力に結びつく質の高い教科書を選んでいただければなと思っております。

結びに当たりまして、文京区の子供たちに適した教科書を適正かつ公正に御審議いただきまして、答申としてまとめていただくことをお願いし、御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○ **担当** ここで委員の皆様にご自己紹介をしていただきたいと思います。

大変恐縮ですが、名簿の順に御挨拶をいただければと思います。石原様からよろしくお願いいたします。

○ **委員** 第一中学校PTA副会長をさせていただきます石原絵里子です。よろしくお願いいたします。

○ **委員** 文林中学校のPTA会長をさせていただきます松田大悟と申します。よろしくお願いいたします。

○ **委員** 公募委員の吉江信貴と申します。息子が第三中学校に通っておりますので、そんな関係でさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○ **委員** 公募でここに来させていただきました鈴木と申します。

もう子供は大きくなっておりまして、私が中学校で教えていた頃の教科書と随分変わったなと思いつつ、いろいろな教科書を見させていただいている次第です。

しかし、コロナの影響で、例えば器楽とか音楽。音楽って歌いますよね。そういうのがどうなるかとか、美術の問題も、どういうふうにしてこのコロナの時代に教科書を使いながらやるのかなととても興味深いというか、どういうふうに教科書と実際の現場の教育が結びついていくのかなと興味深く考えさせていただきます。ありがとうございます。

○ **委員** 第六中学校長の小椋孝でございます。よろしくお願いいたします。

○ **委員** 第十中学校の校長の吉村です。よろしくお願いいたします。

○ **委員** 文林中学校長の宮入祥郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○ **委員** 茗台中学校長の杉浦芳則と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○ **教育指導課長** 松原です。どうぞよろしくお願いいたします。

○ **担当** ありがとうございます。

最後に事務局として関わらせていただきます、教育指導課指導主事の子野日芳和と申します。主に進行を担当させていただきます。

本審議会につきましては、こちらにおります二ノ宮統括指導主事と私の2名、そして各

教科の担当指導主事で担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

○ **担当** ニノ宮です。どうぞよろしくお願いいたします。

○ **担当** 恐れ入りますが、教育長は公務のためここで退席とさせていただきます。

○ **教育長** それでは、よろしくお願いいたします。

(教育長退室)

○ **担当** 続きまして、委員長の選出に入りますが、ここから教育委員会関係委員の松原教育指導課長が進行いたします。

○ **教育指導課長** それでは、委員長が決まりますまで私のほうで進行を担当させていただきます。委員長が決まりましたら委員長に進めていただきたいと思います。

委員長の選出につきましては、資料1、実施要綱第5条に審議会の組織を定めております。また資料2、実施細目第3条に審議会のより詳しい役割と構成等が記載されております。

(2)のア、一番下ですけれども、委員長1名、副委員長1名を置くとございます。おめくりいただきまして、イ、委員長は校長先生方の互選、副委員長については、私、教育指導課長が当たると定められておりますので、恐れ入りますが、この規定に沿って進めさせていただきますとございます。

それでは、互選ということになっておりますので、4名の校長先生方、学校関係委員の皆様から推薦等がありましたら御発言いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

よろしくお願いいたします。

○ **委員** 第六中学校の小椋校長先生にお願いしたいです。

○ **教育指導課長** 今、吉村委員から小椋委員を推薦というお声をいただきましたけれども、ほかの学校関係の委員の先生方、よろしいでしょうか。

(「お願いします」と声あり)

○ **教育指導課長** それでは、小椋委員に委員長としての御挨拶をいただきまして、引き続き司会をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

○ **委員長** 今、委員長の指名をいただきました六中の小椋でございます。行政順のようでございますので、よろしくお願いいたします。座って失礼させていただきます。

まず、次第に沿って進めてまいりますけれども、審議の進め方について、松原副委員長からお願いします。

○ **副委員長** それでは、私から教科書採択の全体的な流れ、それから公正の確保、大まかな日程について資料等に基づいて御説明をさせていただきます。

まず、全体的な流れといたしましては資料3、「2 教科書採択の流れ」というところを御覧いただければと思います。

もう既に5月から、区立中学校10校でそれぞれ研究会をつくっていただきまして、令和3年度より使用する教科書の内容について吟味し、御報告をいただいております。

また隣、調査研究委員会は、教科ごとに3～4名の先生方で組織をし、学校の調査と並行して、より詳しく教科書の内容について検討していただきました。資料9にその報告がございますので、また後で御覧いただければと思います。

この審議会では、調査研究委員会報告等の資料を基に、実際にお手元にご覧いただけます教科書見本も御覧いただきながら御審議していただきます。

実際の審議は、本日から少し始めていきたいと思っております。そして、大変短くて恐縮なのですが、約1か月後、7月末までには答申文をまとめていただきまして、文京区教育委員会に答申として出すという予定でございます。

答申文の例は資料7にございます。

その内容は、各発行者の教科書の特徴、あるいは子供たちにとって有効な部分、文京区の子供たちに適しているといった視点で、教育委員が採択をするための基礎的な資料となりますので、大変重要なものとなっております。

今、文京区は5名の教育委員がおりますけれども、実際に教科書を見て採択を行いますが、審議会の皆様の意見を十分まとめていただくことが、教育委員による採択を円滑に進めることにつながると考えております。

皆様から、ぜひ忌憚のない御意見をいただければ、採択にそれが有効に生かされますので、どうぞよろしく願いいたします。

8月の教育委員会で採択を予定しております。

お戻りいただきまして、資料6を御覧ください。教科書採択につきましては、区民の方から様々な声が寄せられております。要綱に示すように公正かつ適正に採択を進めるため、こうした通知を各学校に既に発出しているところでございます。

最後に、実際の審議について少し御説明をいたします。

中学校では、来年度、令和3年度から新しい学習指導要領が全面実施となります。新しい学習指導要領では、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学び合う力、人間性等」という3つの柱に再整理すること。それから、よくアクティブラーニングと言いますが、**「主体的、対話的で深い学び」**の実現に向けた授業改善の推進を図ること。各学校において、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す**「カリキュラム・マネジメント」**の実現を目指すことなどが示されております。

このような新しい学習指導要領、その改訂の趣旨を踏まえまして、今年度につきましては令和3年度より使用する教科書10教科16種について御審議をいただくこととなります。

審議会は、今日を含めて4回程度ということで、大変限られております。したがって、おおむね1回の審議で3～4教科ぐらい御審議いただくというイメージで、第4回には答申の中身を最後に御審議いただくというようなことで考えております。

説明は以上となりますけれども、担当から少し具体的な補足をさせていただきます。

○ 担当 それでは、補足をさせていただきます。

ただいまの説明にありましたように、教科書見本を御用意いたしました。これは皆様に御活用いただくためのものですが、お荷物になりますので、本日御覧になりたいものをお持ち帰りいただいて、後日改めて教育指導課においていただくことでも結構です。次回以降の審議の教科につきましても、この部屋の中に用意しておりますので、お帰りの際、必要であればお声かけください。

また、資料等につきましては整い次第お送りいたしますので、よろしく願いいたします。

また、次回、第2回には、参考として教育センター及び小石川図書館の展示会における区民の意見も集約して、お示しできればと考えております。

審議の具体的な内容につきましては、実施細目の第2条に規定されている「内容」と「構成上の工夫」という2つの項目を視点としていただきまして、審議内容に反映させていただければと思っております。

そして、最終的には資料7と同様に答申文としまして、それぞれに優れているところや特徴、気づいたところや課題など、その内容を簡潔な文章にまとめていただきます。

以上が、審議の概要でございます。

なお、答申文につきましては、皆様からいただいた御意見を事務局が案としてまとめ、後日、委員の皆様にお送りし、内容を御確認いただくという形を取らせていただければと考えております。

一通り説明させていただきました。御質問があればお願いいたします。

特にないようなので、次に進ませていただきます。

それでは、事務手続と次回以降の日程調整について御説明させていただきます。

審議会委員の皆様への謝礼について、皆様から御提出いただいた振込口座に、1回の審議につき2,000円という金額をまとめて振り込ませていただきます。些少な金額で誠に恐縮ですが、よろしく願いいたします。

次回以降の日程調整についてです。別添の日程調整についてを御覧ください。資料8でございます。

7月6日、来週月曜日以降でおおむね週1回の審議を予定させていただきたく、お願いいたします。第4回については、第1回、第2回、第3回の進捗状況に応じ、答申文のまとめ等についても審議をお願いできればと考えております。

9名全ての方がそろう日というのは難しいところですので、日程が合わず御欠席されるという回につきましては、委員長に一任ということで御理解いただけるとありがたく存じます。

それでは、あらかじめ皆様方の日程を確認させていただき、案として第2回、第3回、第4回を示させていただきます。第2回を7月6日月曜日、第3回を7月14日火曜日、第4回を7月20日月曜日ということでお示しさせていただきます。この3回の日程について、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(首肯する委員あり)

○ **担当** 御配慮いただきまして、ありがとうございます。

早速通知を作成し、委員の皆様にお送りいたします。よろしくお願いいたします。

最後に、記録の情報公開について申し上げます。

本審議会の審議内容については、個人名を伏せて、審議で出た内容を記録としてまとめることとなります。記録については、採択終了まで時限秘となり、それ以降は情報公開の対象となりますので、御承知おきください。

それでは、限られた時間ではございますが、本日の審議をお願いいたします。委員長、よろしくお願いいたします。

○ **委員長** それでは、教育長、指導課長のお話にあったとおり、それぞれの教科書等につきまして、特徴、よさを明らかにする。それから、文京区の子供たちにとって学びやすい、これを用いて学んだときに力を伸ばすことができるという教科書を選んでいければと思います。

また、新しい日常に即した視点も必要かと思しますので、それぞれのお立場から、忌憚のない御意見をいただければありがたいと思います。

本日は、音楽、美術、保健体育、技術、家庭と進めると聞いておりますけれども、これはお時間がめどでいいのですか。2時間程度ということで、8時終了を目途に、行ければ4教科、厳しければ3教科でめどをつけたいと考えています。

先ほどお話がありましたとおり、特別の教科道徳を入れて10教科16種、数えたら69冊というものを見なければいけませんので、効率よく進めたいと思しますのでよろしくお願いいたします。

それでは、早速ではございますが音楽、まず音楽（一般）のほうは2社から出ております。これは器楽のほうとそれぞれセットになっているということですね。それを御覧いただきながらということで、まず、事務局のほうから御説明、先ほどあった「内容」と「構成上の工夫」の2点についてということでございますので、調査研究委員会のほうの報告の概要をお願いします。

○ **担当** それでは、調査研究委員会の報告を始めさせていただきます。指導主事の林と申します。よろしくお願いいたします。

お手元の資料を御覧ください。

音楽は一般と器楽、2種類ほどまとめの資料がございます。今回採択になる教科書につきましては、教育出版、教育芸術社の2社が対象となっております。

それでは、調査研究委員会の報告を読ませていただきます。

まず、教育出版でございます。音楽（一般）。

1、学習内容が「学びのユニット」や各題材にあるピクトグラムで分かりやすく示されており、生徒が見通しをもって学習することができる。

2、全体的に写真やイラストが多く、歌曲や歌詞のイメージ、器楽曲では各楽器の音色

などをイメージしやすい。

3、学びリンクやウェブサイトについては、「見る」「聴く」「記録する」の項目に分かれており、授業で必要な情報が調べやすくなっている。

4、「比べてみよう」という学習では、曲について比較し表現したり、気づいたことを話し合ったりすることで、主体的・対話的な学びにつなげることができる。

5、各楽曲ページの右下には、学習に使用する音楽用語が記載されており、生徒にとって分かりやすい。

6、各楽曲ページの左側には、その題材の目標が記されており、その曲で何を学ぶのが明確になっている。

7、言葉とリズムをつなげ、メロディーの創作ができるように系統立てられている。

続きまして、教育芸術社についてまとめを行います。

1、表紙は生徒が親しみやすいイラストで「音楽ってなんだろう」のページでは、各学年にふさわしいテーマがつけられている。

2、各題材の学習内容や音楽を形づくっている要素が見開きで一覧になっており、学習内容の確認がしやすくなっている。

3、随所にキャラクターの吹き出しによって、主体的・対話的な学びにつなげるための発問の工夫がされている。

4、「指揮をしてみよう」では、各学年の発達段階に応じたプロの指揮者からの解説が的確で分かりやすい。

5、記譜法が分からなくても、オリジナルの表を使用することで、生徒が容易にメロディーの創作ができるシステムがつくられている。

6、我が国の音楽では、長唄や民謡に節回しの絵譜があり、それに合わせて歌うことができる。また、「歌舞伎」「文楽」「能」において、それぞれ知識を身につける、ポイントを押さえて鑑賞する、表現をするという学習の流れが分かりやすい。

7、音楽の様々なジャンルを紹介することで、音楽を愛好する心を育成できる。

以上が、音楽（一般）におけるまとめでございます。

○ **委員長** ありがとうございます。

お手元にある資料のとおりということですが、今、実際に手に取って見ての感想とか、お話を聞いてみて、ここから何か出てくることとか、感想とかをいただければありがたいと思います。

本当はじっくり見る時間を取ればいいのですがけれども、なかなかそれが取れませんので、ランダムに気がついたところを御発言いただいて結構かと思っておりますので、よろしく願います。

○ **副委員長** 次回以降は教科書もお持ち帰りいただいて、ご審議いただきますが、今回は説明と同時に教科書を見ながらでせわないと思うのですが、効率的に進めるため、申し訳ありませんけれどもよろしく願います。

○ **委員長** では、私から。私は九中に6年いて、今回六中に行って2年目なのですけれども、あとほかの学校へ行っても聞くと、小学校のほうで結構音楽をきっちり御指導いただいている部分もあるので、合唱が非常に盛んだと思います。私がほかの地区で教員経験があるときには、私は体育なので、大きな声を出せば結構だったのですけれども、結構楽曲までしっかり読み込んで、みんなで協力して歌うというところがあるので、一つの視点として、歌唱の曲とかそういうところがたくさん出ていたとか、例えば子供たちがよく合唱で扱う曲が出ていたとか、そういう視点でも何か気づいたことはございますでしょうか。

ちなみに、東京都の資料を見ると、教育出版のほうは歌唱の教材が56、教育芸術社のほうは67と、数だけ言うと多いかと思うのですが、今ぱらぱらと見ると、子供たちがよく歌う「大地讃頌」なんかも出ていたり、「旅立ちの日に」が出ていたりとか、それぞれ特徴はあると思うのです。

○ **委員** 前提でお聞きしたいのですけれども、これは両方とも載っている内容は違うということでもいいのですか。ある程度の骨太のところは、指針はあるのでしょうかけれども、要はこっちにあって、こっちにないというのは、実際にはあるということでもいいのですか。

○ **委員長** ありますね。文科省の検定の方針に従って選んでいますので、取り上げる歌は違っていたりとか。

○ **委員** 各教科とも、取っているところと取っていないところが違ってくるといいう違いもあるということですね。

○ **委員長** おっしゃるとおりです。検定を通っているもので、押さえているところは押さえているのですが、基本は押さえているのですけれどもやはり特徴があるので、今の御発言にあったとおり、それが文京区の子たちに合っているかどうかみたいなどころを見ていただくと大変ありがたいと思います。

○ **委員** ありがとうございます。

○ **委員** 少し感想をよろしいですか。

○ **委員長** お願いします。

○ **委員** 子供の視点に立って感想を言わせていただくと、教育出版社のほうをぱらぱらと見ていくと、頭の中にカテゴリーが入りづらいなという印象を直感的に受けました。

例えば、歌舞伎とか日本古来の音楽といったところもきちんと指針に従って取り入れてはいるのですけれども、ジャンルだったり入っていき方というところの敷居というか壁が曖昧で、それがいいのかもしれないのですが、曖昧でちょっと目移りがするなとか、そういった感覚を受けました。

一方、教育芸術社のほうは、そういったところのきちんとしたカテゴリーの分け方がより明確になっているなという感覚を受けまして、例えば歌舞伎とかそういったところの縦軸がしっかりとしているのです、ぱらぱらとめくって行って頭に入りやすいなというところを受けました。

自分が昔受けたときに、音楽の時間は教科書を先生がそのとおりに使ったかという、そうではなかったと思うのです。なので、多分これは子供が自分で見る人が多いと思うのです。そうしたときに、分かりやすさとか頭に入りやすさというのが、教科書を持って帰って家で見たりとかするときにより重要ではないかなと思ったときに、私としては教育芸術社のほうが見やすいなという印象を受けました。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

大変素晴らしい視点からありがとうございます。

確かに音楽の授業は週に1時間ですかね。おっしゃるとおり、あまり教科書を見てこうやっている時間はないので、確かに子供たちが見たり、それで興味関心を高める視点はすごくあると思います。

ほかにいかがですか。何かお気づきになった点、感想とかでも結構だと思うのですけれども、いかがでしょうか。

どうぞ。

○ **委員** 教育芸術社は後ろに「音楽の約束」というまとまったものがいろいろ出ているのですけれども、結構見やすく、音符とか休符とか記号とか用語とか、音楽は意外とそういうものが結構難しいと思うのですけれども、それがすごく分かりやすく、文字も見やすくよくまとまっているかなと思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

お願いします。

○ **委員** 教育出版のほうは、最初のところに音楽の歌うと作ると聴くというふうに目的がはっきり書いてあって、指導をするときもこれに従って、作るというところを主にしようと思ったらここを選んでというところがやりやすいように感じます。

目次のところに全部、それぞれ歌う、作る、聴くというふうに分かれていて、それぞれの歌が何ページにあるかが書いてあるので、そういう点では、指導する人あるいは生徒がこれを見て、作るというのはこういうふうにして作るのだとかというのが、ここを見れば音楽というものの一つの考え方とかつながりができるのではないかなという気がしました。

○ **委員長** ありがとうございます。

ほかに何かお気づきの点はいかがでしょう。

ぱらぱらとめくっただけで恐縮ですが、2、3年の下巻は、3年生のほうで広がりを感じられるところがどれぐらいあるかなと思って見たのですけれども、教育出版の2、3年の下だと66ページ、アウトリーチ、それから音楽を通した教育活動、音楽療法、こういうものが載っています。アウトリーチのほうは震災とか、兵庫だからこれも災害関係かもしれないけれども、そういうときの活動写真ですかね。

教育芸術社のほうは、2、3年の下の55ページ、秋田竿灯祭り。これも東日本の復興を

願ってというところも出ていますけれども、地元のお祭りなんかを取り上げていたり、68ページ、生活や社会の中の音楽。ここでいろいろな広がりとか、音楽とSDGs、こういうところにも触れています。それから70ページ、これはいいかどうかあれですけども、NHKがやった東日本の復興のときの「花は咲く」という歌、こういうものも取り上げているので、音楽だけではなくて、ここから学びを広げていくというところでは教育芸術のほうがあるのかなと。下巻を見ただけですけども、ちょっとそんな感じを受けました。

○ **委員** 同じ2、3の下同士なのですが、後半のほうに音楽の歴史に関する年表形式の資料が、教育芸術社だと90ページから、教育出版だと56ページからなのですけども、教育芸術社のほうは内容的なことと作曲家を同時に表現していて、結構いいかなと思ったのですが、教育出版のほうはまず内容的なことを述べてから、60ページから作曲家に限ってグループ分けして、年表と併せて活躍したとか生きていた、こっちのほうは何となく、後から子供たちが自分で調べたり何かするのに見やすいのかなと感じました。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

巻末にある「音楽の約束」とか「楽典」みたいなところは、あまり私は中学校で習っていなかったもので、サボっていたので音符を読んだりするのは非常に苦手なのですけれども、教育出版のほうは見やすい感じがありますね。後ろの見開きのところ、音符の読み方とかそういうところ。教育芸術のほうも後ろにまとまって、強弱記号とかは両方出ているのですかね。ちょっと教育出版のほう詳しいかなという感じですね。指揮の振る例。こうやっているのかと、やっとなんかを見て分かりましたけれども。

○ **委員** 委員長のおっしゃるとおり歌の部分も、教育出版の歌うための準備というところ、音楽の先生にとってはこんなことは別に書いていなくてもと思うのかもしれませんが、そこを比較すると、教育出版のほうは12ページと13ページに歌い方が書いてあるのですけれども、教育芸術社のほうが14ページと15ページで、歌い方についてはこっちのほう詳しく出ているのかなと。

それから、今おっしゃっていた指揮の振り方についても、教育芸術社、合唱コンクールなんかではよく指揮者というふうに指導したりするのですけれども、その部分にとっては教育芸術社のほうが指揮の仕方について説明が詳しく出ているかなという気がしました。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

お願いします。

○ **副委員長** 同じところを別々の教科書で比べてみると分かりやすいのかなと思って、私は1年生の「魔王」というところを見ただけですけども、教育出版のほうは、登場人物の表現の特徴に着目して、聴き取ったことや感じ取ったことをまとめておきましょうということで、非常に大きい問いかけなのです。だから、それで十分考えられる子もいるだろうけれども、なかなかどこを聞いたらいいいのかというのが分かりにくい面もあるのかなと

思います。44ページです。

教育芸術社のほうは50ページになりますけれども、もうちょっと具体的に、演奏者は1人で4人の登場人物を歌い分けるためにどんな工夫をしているのだろうか、「お父さん、お父さん」と子供が呼ぶ部分では、音の高さはどう変化しているかな、またどうしてそうになっているのかなというかなり具体的な投げかけがあります。

先ほど委員がおっしゃったように、子供がこれを見て、ちょっと自分で勉強したいなと思ったときには、より教育芸術社のほうが親切なのかなと思います。

もちろん教員が適切に投げかけると思いますので、授業ではそんなに差はないのかもしれませんけれども、詳しく書いてあるという印象を持ちました。

○ **委員長** ありがとうございます。

ちょうど1年のところで、今の「魔王」とヴィヴァルディの「四季」が、教育出版のほうは38ページぐらいからずらっと並んでいて、教育芸術は44ページ辺りからずらっと並んでいるので、見比べると非常に興味深いというか、得意でない子はどちらが親しみやすいですかね。今、課長がおっしゃっていただいたほうですかね。

○ **委員** うちの中3の男子なのですけれども、小学校のときにアニソンとかはすごく好きで、でも学校の音楽が全然で、ただ担任の先生が、アニソンが好きな子は学校の音楽は好きじゃないんですよとおっしゃったのです。なるほどなんて思ったのです。

やはり教育芸術社のほうだと、表紙や中に松任谷由実さんや野村萬斎さんが出ていたりとか、苦手な子でも子供目線で何となく入りやすい感じで、得意なお子さんと、ちょっと音楽はそんなにという。やはり男の子は割とあまり音楽の授業になかなか興味を示さないもので、そういった部分では芸術社さんのほうが、子供の目線では食いつきやすいのかなと思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

事務局のほう、いかがですか。それぞれの特徴ということで、こちらで皆さんからそれぞれのお立場で出していただいたところですがすけれども、音楽のほうはこの辺で大丈夫ですか。いいですか。

優劣をつけるわけではないので、それぞれの特徴が表れて、これを見て教育委員さんが材料にするわけですよ。だから、これぐらい両方の特徴があれば結構いけるのかなと今思ったのですけれども、よろしいですか。

○ **担当** 結構でございます。

○ **委員長** ありがとうございます。

最初から非常にいろいろ意見を出していただいて、ありがとうございます。

続いて、器楽です。これは別に違うこともあるわけですよ。2社あって、一般がA社で器楽がB社というのもあり得るわけですね。

ほとんど同じケースが多いとは思いますがすけれども、いろいろな区市町村を見たときに、たまに違っているところもあるので、別にこれはこれで見ればいいわけですね。

○ **委員長** いかがでしょうか。

○ **担当** それでは、器楽についての調査研究委員会からのまとめについて、幾つか御紹介させていただきます。

○ **委員長** 特に特徴的なところをこの中で拾っていただくと助かります。両方ないものとか、そういうものを拾っていただくと分かりやすくいいと思います。

○ **担当** それでは、教育出版から説明をさせていただきます。

まず、1番でございます。リコーダーのタンギング、サミングなどの技法の習得について詳しく書かれているというところで御確認いただきますと、教育出版の6ページを御覧ください。こちらにタンギング、そして12ページにはサミングの記載がされております。

続きまして、5番でございます。ページの配置として、こちらは教育出版、芸術社ともに異なっている部分でございますが、洋楽器と和楽器ではなく、和洋ミックスされた形で配置されているというところで、目次を御覧いただくとお分かりになるかと思えます。教育芸術社、教育出版ともに目次のページを御覧ください。

教育出版につきましては、リコーダーからスタートし、リコーダー、篠笛、そして尺八、ギターと続いておりますが、教育芸術社につきましてはリコーダー、ギターという形で、教育出版につきましてはミックスされた形、教育芸術社につきましてはリコーダー、ギター、琴、三味線と分かれたような形で配列がされているというところが、調査研究委員会からの報告でございます。

また、特徴といたしましては、教育出版につきましては、篠笛の楽譜が豊富であるという報告が挙がっております。

続きまして、教育芸術社でございます。

1、学びを深めるための手だてとして、Q&Aの形で演奏のポイントが記載されているというところでございます。

特徴といたしましては、13ページを御覧ください。「深めよう音楽」の中で「パートの役割」というページがございます。その中で、それぞれのところにQ&Aのような形でポイントが記載されております。

また、教育芸術社につきましては2番でございます。リコーダーのページ、アルトリコーダーと共にソプラノリコーダー用の楽譜も記載されている。そして、目次を御覧いただきますと、アンサンブル、アンサンブルセミナーという形で分かれているところも特徴であると伺っております。

大きなポイントにつきましては以上でございます。

○ **委員長** ありがとうございます。

お気づきになったところからお願いします。

私から。東京都の資料を見ると、出ている曲数は教育出版のほうが多いです。演奏形態別の合計で言うと74と56、我が国や郷土の伝統、音楽の数が教育出版は24、教育芸術は17、それほど差があるわけではない。諸外国が教育出版34で教育芸術28。対して、取り上げて

いる楽器の数は教育出版が20で教育芸術が32、逆ですね。これも時間数が少ない中で取り上げてみると、曲がいっぱい出ているのいいか、楽器がいっぱい出ているのいいかという、どっちでしょうね。自分で見る分には楽器がいっぱいあると楽しいですかね。

あと、ギターのところを見てみたいと思って、教育芸術が32、出版が28からです。あまり変わらないですかね。どっちが見やすいか。自分でこれを見てやってみようと思うのは、なかなかどっちというわけにはいかないですかね。難しいところです。

○ **委員** ギターでいうと、教育芸術はちゃんとエレキギターとかギターの種類も分けてくれているので、興味を持つ子は中学校時代からパンクとかロックにはまっていますから、いいのかもしれないですね。

○ **委員長** そうですね。自分からすると懐かしい人の名前も下のほうに出ています。子供たちは知らないでしょうね。

今おっしゃっていたように、取りかかりとしては芸術社のほうがずっと行ける感がありますかね。

○ **委員** リコーダーのタンギングのところ、リコーダーの説明が、教育出版のほうがいラストは分かりやすいのですけれども、芸術社のほうで悪い例が書いてあるのです。あまりお上手ではない子向けには悪い例がいいのではないかと思います。

あと、中学校からギターに興味を持つ子には、いろいろ書いてあるのもいいのかなと思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

確かにできない子が気づきの部分があるとうれしいですね。

○ **委員** 自分の子ができないから、できない子目線が。

○ **委員長** 特に楽器は、できないとやりたくなくなりますからね。

事務局のほうで、例えば和楽器の捉え方なんかはどうですか。差はありますか。取り上げ方みたいな。

○ **担当** 和楽器につきましては、教育芸術社、教育出版共に同じポイントで取り上げられておりますが、教育芸術社の4番につきましては、それぞれのページの写真も多く使用された解説で分かりやすいという形で報告が挙がっております。

○ **委員長** ありがとうございます。

琴、三味線、太鼓で、やらないのだろうけれども、目次だけ見ると、先ほど申し上げたとおり楽器の取上げ数が多いというだけあって、教育芸術は篠笛、尺八なんていうところも取り上げているんですね。興味関心を引くというところでは、いろいろ出ているほうが面白みがありますね。

○ **委員** 素朴な疑問なのですけれども、篠笛とかはすごく大きく取り上げられているのですけれども、今、授業でやるのですか。

○ **委員長** 三味線、琴もどっちかですよ。

○ **委員** でも、どっちはやるのですか。

○ **委員長** 和楽器は取り上げなさいというのがありますので、本校では、琴をやっています。

○ **委員** 本校は両方やっています。

○ **委員** 学校にあるのですね。

○ **委員** 太鼓の打ち方は教育出版のほうか。太鼓はいろいろな置き方があるので、いろいろな構えがあったり、それがすぐ打たせやすいなという感じがします。

楽譜はあまりないです。太鼓の曲は、教育芸術社のほうはアンサンブルもできそうな譜面も入っていますけれども、その違いがありましたね。

○ **委員長** なかなか太鼓を持っているというところは。三中がやっていますかね。

○ **委員** 小学校のほうがありますかね。

○ **委員** 中学校はないですね。

○ **委員長** どちらかという部活動なので、ブラスバンドになってきますので、そっちの楽器は結構友達がやっているとかで親しみはありますけれども。

○ **委員** 文京区は、地域だと意外と太鼓をやっているところが多いですね。

○ **委員長** あとはよろしいですか。

事務局のほう、器楽はこれぐらい大丈夫ですか。

○ **担当** ありがとうございます。

○ **委員長** では、音楽は終わらせていただきます。

美術へ行きます。

○ **担当** 続いて、美術をお願いいたします。美術は3社ございます。

初めに、光村図書についてです。

光村図書の特徴は、1つの題材の中で表現と鑑賞を一体的に学ぶことができるように構成されています。例えば1年生の10ページ、見つめ、感じ取り、描くという単元がございます。ここの10ページの部分では、生徒作品の鑑賞から始まり、11ページでは自分で表現してみよう。12ページも続き、最後に13ページが作家の作品の鑑賞。こういったように、表現と鑑賞を一体的に学べるような構成になっています。

また、題材の初めの鑑賞のページでは、生徒の対話が生まれるような問いかけが示されています。10ページの鑑賞のところでは、これは中学生が描いた作品だ。どの作品が気になるだろうか。あなただったら何をどのように描きたいか考えようといったところです。

表現のページでは、生徒の学習の様子を写した写真や、実際のスケッチなどが掲載され、学ぶ生徒の発想や構想の手がかりにすることができます。

また、中学生生徒の制作過程を詳しく紹介し、実際の中学生が試行錯誤しながら作品を制作する過程を学習者である生徒が知ること、それを自分の表現に生かすことができます。

また、他教科とのつながりという面では、例えば45ページ、国語の漢字、社会の土器、数学の平面図形、理科の自然、家庭科の食文化などを意識したコラムがあり、カリキュラ

ム・マネジメントという配慮もされています。

QRコードの横には、開かなくても、ここを開けば何が見られますよという説明書きがあり、開かなくても内容を確認することができます。

コンテンツでは、技法の動画、作品を360度から見ることのできる360度動画、また全国の生徒の作品などを見ることができます。

続いて、開隆堂出版です。

開隆堂出版では、各領域の扉のページがあります。例えば8ページ、32ページといったところに扉のページがあり、何々で学ぶことということが示されています。その学習を通して学ぶ内容や学習の魅力などがメッセージとして生徒に伝えられています。このページを通して、生徒に学習の意義や方法を理解させた上で、実際の学習へつながるという構成になっています。

10ページにあるように、学習の目標が3観点で示されています。ここで生徒に育成したい資質・能力を分かりやすく整理しています。ページの下部分には他教科への内容や美術科における関連ページを示して、ここもカリキュラム・マネジメントへの配慮がされています。

また、開隆堂は全領域にQRコードが示されています。ここでは作品の解説、所蔵先へのリンク、用具の正しい扱い方、技法などの動画を見ることができます。

最後に、日本文教出版です。

12ページにあるように、ここでは活動や目的を示すタイトル、サブタイトル、生徒の意欲を引き出すメインタイトルというように、またその後にも生徒に問いかける主文。今、1年生の12ページです。そのような3段階の構成になっています。生徒の学習への意欲を喚起することにつながります。

日本文教出版も、学習の目標が3観点で示されています。掲載されている生徒の作品には、緑色の吹き出しで作者の言葉というものが示されています。作品の主題であったり、制作過程の工夫したポイントが分かり、学ぶ生徒にとっては発想や構想を深めるヒントがそこに示されています。

28、29ページのように、教科との横断、国語、社会科との関連が図られていて、そのように活用しやすい事例や題材を取り上げています。また、左ページの下には双葉のマークで緑色の文字が示されています。ここは道徳と関連する言葉が示されています。

QRコードでは、技法の説明や作品の解説、360度動画を見ることができます。

それぞれの教科書の掲載作品の総数は、光村図書が589点、開隆堂出版が600点、日本文教出版が615点となっています。それぞれの掲載作品の中で、生徒作品の割合が多いのが日本文教出版、日本や諸外国の美術作品の割合が多いのが光村図書となっております。

美術についての大まかなところは以上です。よろしくお願いいたします。

○ 委員長 いかがでしょうか。

今のお話だと、作品数はそんなに大きくは変わらないのですね。

文教出版だけ3冊ということは、でも厚さ量としては同じですか。

○ **担当** 2分冊、3分冊の違いはありますけれども、分量的には大きく差異はないと思います。

○ **委員** 文教出版は一つ一つの写真がすごくばっと大きいインパクトがあるので、その大きさが3冊になっているのかなという気がするのです。美術はやはり大きい絵が必要なのかな。インパクトが大き過ぎるような気がします。

○ **副委員長** 今、中学校は結構かばんが重いという話があって、3つに分かれているといい面もあるかなという感じはします。

○ **委員** もしそれだったら、光村だけがほかの教科とそろっている大きさなのです。運搬するということと言うと、かばんへの収まりとかはこちらのほうが優れているかなという感じがします。

○ **委員** 私の子供の頃を考えると、一番教科の中で教科書を先生が使わないのが美術だと思うので、多分持ち歩きをあまりしないのではないかなというの思うのです。

今は皆さん、美術は教科書に沿ってやるときもあるのですかね。でも、生徒たちが望むのはそういうことではないような気がするのです。

そうすると、これも視点としては、この2つの教科書も多分そういうことを前提に大きくして、どちらかというと迫力を持った画像を見て刺激を受けてほしいとか、見開き部分が各社すごく思いが入っているという印象を受けたのですけれども、そういったところから、芸術というのは単に絵だけではないよ、彫刻だけではないよという、全てにおいての総合的なものが芸術なんだよという入り口ということをもって、興味を持ってもらいたいという思いが各社とも出ているのかなと思いましたので、美術に関しては、持ち運びは特に考慮しなくていいのではないかなという気がしました。

○ **委員** 私も内容的な話ではないので恐縮だとは思いますが、今、そういう物理的な話も出たので発言させていただきました。

○ **委員長** だんだん中学校も、文科省がかばんが重いのを何とかしろとかそういう話もございますので、おうちへ持って帰って学習に必要なもの以外は置いていっていいとか、そういうことも増えています。

あと、前任校は美術の専任がいたので、大きい電子黒板が入って、あれで見せるとかなり違うというのです。もちろんこれで見られるように大きくしてはいますが、文京区の場合はやはりデジタルで見せられるのがいいということなのですから、事務局のほうで後で確認してほしいのですが、東京都の資料を見ると、デジタル教科書学習者用というものの発行予定があるのは開隆堂と日文。光村は発行予定の印がついていないのです。その辺、学習者用のデジタル教科書というのが、先生が見せるのでどうなのかというところがあるので、次回もしお答えいただければ、それも参考として教育委員会のほうへ上げられると思います。

でも、デジタル教科書って教員用はないよね。どう考えても子供用だよ。これがもし

本当にないのであれば、あるとなしでは、文京区の学習環境を考えるとやはりデジタル教科書は不可欠だと思います。

確かにおっしゃっていただいたように、見開きを比べるとすごいですよね。今、印刷もすごくよくなっているのだと思いますけれども。色の乗りは好みがあるのだろうけれども。大きさに違ふのかな。

○ **委員** 日本文教出版の目次が2、3年生の下だけで、あと1年生とかは目次がないので、私としてはちょっと戸惑ってしまったのです。

あるのですね。すみません。

○ **担当** 1年生は9ページの右側に。

○ **委員長** 奥のほうなのですね。

○ **担当** 確かに、最初がないので見つけづらい部分があるかなと思います。

○ **委員** でもちゃんとあった。ごめんなさい。

○ **委員長** 逆に、最初の部分が口絵とかそういう扱いなのですかね。

○ **担当** 小学校からのつながりであったり、中学校美術への学びの接続というところでページ数を割いているのかなと。3年間でこのような学びをしますというところで、美術1のスタートが8ページ、9ページから。

○ **委員長** それは逆に言うと特徴なのですね。まずつかみというか、印象をばしっと入れるというのはね。この辺は好みだろうな。

○ **委員** 美術に関しては、本当に好みがよく出るなという感じがいたします。

文教出版に関しては、多分ジブリの絵を出すことで、子供たちの最初の興味を引こうという意図がすごく出てきているなというのが分かるのですが、一方、開隆堂に関しては高村光太郎という、私も大好きなのですからちょっとマニア好きな作家を取り上げることで、この人は詩も作って、こういうのも作っているよというところと、次に草間さんが出ていたりというところで、知る人はすごい知っているというところを取り上げてくることで、芸術の扉を開こうとしているというところも、私は嫌いではないなというところですね。

光村さんは、有名な作品ではなくて、身近な写真というところから美しさだったりを導こうとしているという特徴。

○ **委員** 光村にもジブリはありますよ。

○ **委員** 載っていますか。最初のところ、見開きのところの特徴として。

○ **委員長** 何か事務局のほうで、文京区に親しみ深いものがたくさん載っていると、そういう視点ではいかがですか。特に。

○ **担当** 私立中学校になるのですけれども、文京学院中の子の作品が。ちょっとお調べいたします。

○ **委員長** 先ほど音楽でも出ていた得意でない子供たちの視点で見ると、何かお気づきのところはありますか。絵を描くのがあまり得意ではないから、好きではない子供でもこれを

見たらやってみようと思えるとか、そういうのがあると。

どこかを比べてみるといいですね。版画なんかはどうなのですかね。

○ **委員** 2、3年生のデザインや工芸などという項目の中で、開隆堂さんだと76ページ、光村さんで62ページ、文教出版さんだと36ページぐらいからあるのですけれども、開隆堂さんに安心と安全のデザインというものがありまして、こういうのを子供が学んでくれると、親としてはうれしいなという気持ちがあって、こういう目線で社会が誰でも住みよくなっていくといいのかなとちょっと思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

○ **担当** 関連して。

今の安心・安全のデザインのところなのですけれども、77ページの上の作品が文京学院大学の学生さんの作品になっておりました。グッドデザイン賞を取ったというものが、地震防災マニュアルというところで掲載されております。

○ **委員** このQRコードというのは、授業中に何か読み取って電子黒板に出せたりとかはできるのですか。

○ **担当** そういう形もできますし、生徒がタブレットで読み取るということも可能です。

○ **委員** 私が感じたことは、私の時代ではなかったのですけれども、各社とも漫画に触れているというのが面白いところだなと思ったのです。光村さんのほうは39ページに漫画のところはあるのですけれども、昔の絵、絵巻物と漫画を比べてみて、同じ技法を使っているということで、子供が興味を持ちやすくなるのかなというのは感じました。

開隆堂さんは2、3年の112ページ、漫画が同じように書いてあって、ここにはそれに付随してアニメーションはどうやって作っているのかということも触れていたり、各社いろいろ面白い特徴があるのかなということなのです。

光村さんは、恐らく紙質で表現をしたかったということがあると思うのですけれども、ところどころ日本画のところは紙質の違う絵を入れていて、この紙質のほうが、子供として実際に日本画、1年のほうにも版画の絵のところは紙質の違う絵を挟まれているのですけれども、そういうところを見て、写真だけではない、こういう紙質で実際に触れてみるというのも一つの教育手法としては面白い試みなのかなというのは感じました。

○ **委員長** 探し切れてはいないのですが、最近はやりのピクトグラム。開隆堂出版が2、3年の64ページ、オリパラの新しいのが出ています。それから、光村が2、3年の60ページ、これはどんと分かりやすく情報を伝えるという、この辺は津波のも右下に出ています。文教出版は特にピクトグラムは出ていないみたいなのですが、1年の44ページに地域のマーク、静岡県のマークが富士山と駿河湾でできているとか、オリンピックのマークとかが出ていますので、こういうところを見ると、分かりやすく情報を伝えるという光村のほうが、子供たちは興味を引くかなと思うところなのです。

いかがですか。あとお気づきの点がございましたら。

○ **委員** さっき別の委員がおっしゃっていたみたいに、本当に文教出版さんが、サイズ

も大きいのに開くとどんと来るのがええっとなって、見やすさで言うとそんなに見やすくないです。大きいからいいというものではないのですね。すごく強烈な感じがしてしまっ

○ **委員長** インパクトが非常にありますね。

○ **委員** 強いインパクトが。

○ **委員長** ぱぱっと見てみると、確かに印象は強いですね。

○ **委員** ぼんぼんと来てしまうかなと。

○ **委員長** いかがでしょうか。ほかによろしければ美術はこの辺で一区切りとしたいと思いますが、よろしいですか。

○ **委員** 先ほどもどなたかがおっしゃっていたけれども、開隆堂の113ページのアニメーションの技法というのは、ほかのところは漫画は出ているけれどもあまり技法まで言っているところはなく、アニメーションはもう日本の文化だから、アニメーションの技法なんかは子供たちは喜んで見るというか、将来的にそういう分野に進む子ができるといいなと思って。開隆堂の113ページのアニメーションの技法、基本的なことしか出ていないけれども、手塚治虫さんの写真が出ていたり、そういう点で開隆堂さんの美術はいいなと思って見ていました。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

今、子供たちが見ているようなアニメもちゃんと入っているのですね。

事務局のほう、分かったら教えてください。今ぱっと開いたときに、開隆堂の2、3年の63ページにSDGsが出ているのです。17の目標をこうやって取り上げてもここで云々というのはないけれども、美術的にこうやって取り上げているのは面白いなと思うのです。ほかのものも載っていますか。自分で探してから言えばいいのですけれども。

○ **担当** 日文が2、3年生の40ページ。

○ **委員長** どっちですか。

○ **担当** 上です。美術2、3年の上の40ページに扱いがあります。

○ **委員長** こっちもきれいですね。

光村はありますか。

○ **担当** ちょっと今、見当たらないです。

○ **委員長** 分からなければ目立たないということだと思うので。

事務局に投げて悪いのですけれども、後でもし調べて、3つとも載っているならば、3つとも載っているでいいし、2つだったら2つであるということで、載せておいていただければ。

○ **担当** 承知しました。

○ **委員長** 光村ですね。

○ **担当** 今、光村が探し切れていないです。

○ **委員長** 美術は終わりにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、保健体育へ参ります。

事務局のほう、説明をお願いします。

○ **担当** 保健体育ですが、4社になっております。東京書籍、学研、大日本図書、大修館書店となっております。

特に外見を見ていただいて、どれもカラフルになっておりますが、大きさ等もさほど変わりません。1社だけ、大日本が少し横が小さくなっているというところで、ほぼ変わっておりません。

まず見ていただきたいのが目次のページ、本当に最初のところなのですが、各社開いていただきますと、全て4社ともほぼ同じような形で目次という形になっております。よく保健体育で特徴なのが、この後にスポーツの部分や、今回は本来ならばオリンピック・パラリンピックが今年行われるはずでしたので、各社ともオリンピック・パラリンピックについては大きくカラーページで載っています。

見ていただくと、特に好みの部分もあるかなと思うのですが、有名なオリンピック、パラリンピアンを大きく載せているところ、あと細かく一人一人のインタビュー等が載っているというところで構成がされておりますので、こちらのほうは御覧いただければと思っております。

それから、各社ともに少しめくっていただいて、例えば、一番初めに御説明させていただきます東京書籍のほうなのですが、1ページ目に教科書の使い方という形で、この書籍にもあるのですが、こんなコンテンツがあるよというところで様々工夫がされています。大きくは各社ともそれほど変わっているところはございません。

それでは続けて、一社ずつ説明させていただければと思います。

まず、東京書籍のほうなのですが、目次の部分に移っていただいて、実は配列が今回ちょっと変わっています。具体的に言いますと、目次のページの保健編、2年生の第3章と第4章、それから3年生の第5章と第6章がほかの3社とは違っています。3社とは違うというのは、学習指導要領の配列と変えてきている。

教科書会社のほうに聞いたところ、なぜ変えたかという意図がありまして、2年生の春から夏にかけて交通事故が多発しているというところで交通事故の部分、あとは自然災害についても、夏以降にあるので、そちらも1学期の間に子供たちに指導していくほうがいいのではないかと。あと、本来ならば水泳指導が1学期の終わりぐらいから始まりますので、応急処置の手当てについてもプールに入る前にやったほうがいいのではないかと。こちらの3章と4章を他社とは変えているというところ。

3年生については、熱中症がはやり出すのは夏前になるので、こちらも5章と6章を変えて、そういったところを配慮しているということ。

あと、6章のほうを後にしているというのは、感染症は大体冬場にインフルエンザなどがはやりしますので、そういったところで配列を変えているというところが特に印象的な部

分になってきます。

46ページを開けていただければと思います。例えば、章の末になっている資料の部分なのですが、こちらの資料を見ていただきますと、現代の社会的課題を大きく取り上げているというところで、例えばインターネットによるコミュニケーションのトラブルというふうにそちらの表ではなっておりますが、今の子供たちに本当にトラブルが多そうなところを象徴的に挙げているというのが一つの大きなところになっていきます。

また、65ページを開けていただきますと、広くここは交通事故の発生の要因という章になっておるのですが、こちらを見ていただくと、例えば左上のほうから見つける、課題の解決、そして問いみたいなものが確認しようというところで65ページの上のほうにあって、そして活用するというページで、単元の中で50分間、狙いから始まって、学習した内容を最後、活用しようといった流れの形式になっております。

活用するというところで対話的な活動、広げるというところで主体的に考えることのできる構成になっていて、深い学びの実現できる教科書の内容になっております。

続きまして、学研のほうを御説明させていただければと思います。

こちらの教科書では、特徴的なのがまず27ページを御覧いただければと思います。これは他の教科書にはないところなのですが、左下に人というところがあって、例えば人の紹介、あと仕事について紹介などがありまして、もちろんここは健康な生活の健康の成り立ちのところなのですが、一流アスリートを育てた方とか、パフォーマンスとか、そういった部分で携わった方の紹介等が入っています。

また、例えば43ページでは、左下にLGBTのことなど性的マイノリティーに関することも触れられています。

その次の45ページを開けていただきますと、こちら先ほどの東書と似ているところがあると思うのですが、ここは体の発育の発達というところなのですが、左上に本時の学習の目標が明確に載っていて、今日は何をやるかという課題がすぐ下にあります。

そして右のページには、考えて調べるというところで、先ほどもありましたが子供たちが思考力を働かせる部分の問いがあって、最後にまとめるという形で本時のまとめに入っていくという、50分の単元を分かりやすくしているところがあります。

こういった意味で見えていきますと、どの先生も指導しやすい内容になっていて、特に新採の若手教員などが見るとなかなか一目瞭然で分かるような教科書の配列になっております。

続きまして、大日本図書を御説明させていただければと思います。

こちらは、21ページを見ていただければと思います。食の生活と健康という章になっておりますが、まず学習の狙いが左上に明確になっていて、その後すぐ、つかもうというところで、この単元で何を明確に子供たちが学んでいかなければいけないかというところが分かりやすくなっています。

そして、21ページの上になりますが、やってみようというところで、ここでは昨日の食

事を書き出してみようということで、下の資料2を使って、ここも子供たちには非常に分かりやすいのかなと思います。バランスのよい食事というところで、昨日の自分を振り返って、栄養の配分といったところも右の表で見られるようになっていきますので、子供たちにとっては比較しやすいデータになっているのかなと思います。

最後には、活用を深めようという章になっています。

続いて、見ていただきたいのが114ページになります。こちらは章末の資料になっておりますけれども、熱中症について非常に細かく載っております。こちらの章については、特に熱中症の予防と応急手当てというところで、子供たちが日頃から、例えば水泳指導もそうですし、現在もコロナの対応というところで、マスクをしながらというところもありますが、そういったところも含めて熱中症について深く学んでいける章になっているように思います。

あと、106ページに心肺の蘇生法というところがあるのですが、実は見開きになっていて、他の教科用図書と比べると非常に見やすくなっています。こちらについては、特に文京区の中学校においては、中学校3年生で全ての生徒が蘇生法の取得をしているというところもありますので、大変参考になっているのかなと思われまます。

最後になりますが、大修館はまず27ページをお開きいただければと思います。こちらは章のまとめとなっておりますが、学習してきた章のまとめ、振り返りというところで、27の左下を見ていただければと思いますが、まずは学習したことを基に自分の課題を見つめていこうというところ。あとは学習の振り返りが、5つほど項目がございますが、非常に分かりやすく配列されております。

38ページを開けていただければと思います。ここは性への関心と行動というページになっておりますが、こちらの教科書の特徴として、左上、38ページの課題をつかもう、考えようというところでまず課題をつかんでという授業の入り方、右上には今日の学習というところの見やすい表題になっていて、これはどの教科書もそうですが、最後、右の下のほうに学習のまとめと確認しようというところで、学習のまとめのほうが各單元ごとにできるようにとなっております。

こちらの課題をつかむ、それからまとめという部分が非常に具体的で、答えやすい内容にまとめられていると感じております。

最後、139ページをお開きいただければと思います。一番下にウェブというところがございまして、この章の単元の関連したサイトのほうが表示されています。他社の教科書にもこういったところはございますが、やはり文京区の場合、ICTあるいはデジタルコンテンツの活用というところで非常に進んでおりますので、こういったところ、先ほどの美術のほうでもお話がありましたが、タブレット等を使って、授業の中で子供たちが調べ学習をしたりということが非常にできる教科書。4社ともになりますが、そういったところが前回の採択に比べると増えているなど感じております。

以上で説明を終わらせていただきます。何か御質問等あれば、よろしくお願ひいたします。

す。

○ **委員長** 詳しく御説明いただきました。

いかがでしょうか。

○ **委員** 単純な質問なのですけれども、こういう教科書は今回の新型コロナが出て、最後の大修館は感染症でインフルエンザが出ているのですけれども、マスク。教科書の後に特別に、後からこの感染症についてという付録みたいな冊子を教科書会社が来年度に向けて入れるとか、そういうことは例としてあるのですか。そういうことはないのですかね。

○ **担当** 基本的には、今、構成されているものを、急に今回のコロナの件があって何か付け足すというのは今まではないです。あとは、この教科用図書を使って各教員が、そういった形で教材を作ったりというところで、感染症の部分やそういったところに関連があるところで詳しく指導していくというのが中学校の現在の教育かなと思います。

○ **副委員長** ただ、国や都が資料を作りますので、それを活用して、授業でやることはできます。

○ **担当** そうですね。副教材という形になります。

○ **委員長** 資料提供がある可能性はありますよね。

○ **担当** それは、ウェブ等のようなものであると。

○ **委員長** 要は、これは検定が去年ですから、もうコの字もなかった時代に作ってしまったものですから。

○ **担当** ウェブのそういったものとかというのは、そういった冊子とかについてくる可能性は十分ございます。

○ **委員長** どの教科書もキーワードが明確に示されているので、短い時間で学習を進めるには非常に。保健分野以外はこれを手にしてというのはなかなか難しいところなのであれなのですけれども、例えば体育理論、3年生とかで国際的なスポーツ大会とその役割というものを扱うのですが、オリンピック等なのですけれども、東京書籍が172ページ、学研が140ページ、大日本図書が122ページ、大修館が124ページです。それぞれ見開きでぼんちあって、資料がついているのですけれども、オリンピック等を取り上げていただくのは非常にあれで、最近嘉納治五郎さんもよくクーベルタンと一緒に取り上げられているのですけれども、役割として国際親善と世界平和があるのだよというところをどこも触れているのですけれども、しっかりそこに重点を置いているのが東京書籍と大修館かな。停戦の壁とか平和を願う折り鶴とか、こういうところまで載せている。この2社は非常にいいのかなと。

オリンピックはどういう目的があるのだというところで、オリンピズムで平和のためにやるのだよということが書いてあるところなのですけれども、なかなかすっ飛ばしてしまうところなので、教科書で押さえてあるというところは非常にいいのかなと思います。

○ **委員** 嘉納治五郎さんが出ているのはこれしかないのですか。今おっしゃってくださった大修館しかないのでしょうか。文京区だからぜひ出してほしい気がしたのです。

- **担当** 例えば大日本図書の最初の7ページに、オリンピック・パラリンピックというところで写真が載っております。
- **委員長** めくると出てくるかと思ったら、割と出てこないですね。
- **担当** そうなのです。
- **担当** 学研の137ページ、東京書籍でいうと169ページでも紹介がされているようです。
- **委員長** 文京区の流れでいうと、柔道というよりもオリンピック関係で嘉納治五郎を扱ってほしいですね。もちろん柔道の創始者というのは大きな功績ではございますけれども。
- **担当** そうすると、学研で取り扱っているのはよくお見かけする写真で、しかもオリンピックの委員という紹介が明確に載っています。
- **委員長** やはり詳しくは大修館にはかなわない。クーベルタンとの関わりが出ています。新国立競技場には、2人の銅像が建っていますよね。前からあるのですけれども。
金栗四三さんと三島弥彦さんは取り上げている割に、ここに出ていると学研もうれしかったかなと。146ページです。日本のオリンピックの歴史。
でも、これは載っていなければいけないという必修の材料ではないと思うので、文京区としてはみたいなところで。
- **担当** 各社、今回オリンピックについてはかなり詳しく取り上げられています。
- **委員長** ただ、1年延びたから使う期間が増えましたけれども、オリンピックのレガシーとかその後まで扱っているという点では、どこか詳しいところはありますか。
要は結局1年延びたからタイムリーで取り上げますけれども、もし今年やっていたら、終わってから教科書を扱うわけですよね。
- **担当** そうですね。
- **委員長** オリンピックの価値とかレガシーみたいなところを取り上げておいてくれるといいのだけでも、大修館だと127ページにレガシーがある。どこもレガシーは出ているのですかね。
- **担当** レガシーという言い方では、そうですね。
- **委員長** 学研が148。
- **担当** 非常に大きくという形ではないですけども、学研もページの半分も行かないところですが。
- **委員長** なかなか教えるにくい部分ではあるので、教科書にしっかり示していただけるとありがたいですね。
- **担当** そうですね。東京書籍はないですね。
- **委員** 違う視点からコメントを1つさせていただいてよろしいですか。
- **委員長** お願いします。
- **委員** 内容ではないのですけれども、大修館と大日本というのは、漢字に対しての振り仮名が特徴的に少ないのです。学研と東京書籍に関しては、結構振り仮名を振ることが

非常に多いという特徴があるなど思いまして、知っている人は振り仮名が振られていると読みづらいとか目がちかちかしてしまうので、邪魔だなという印象なのですが、一方、漢字が苦手な人は振り仮名が振ってあるほうが頭に入るのかなというところなので、よし悪しだと思えるのですけれども、そんな特徴があるなど気づきました。

○ **委員長** 保健分野では専門用語も多いので、中学生にとっては振り仮名が多いほうが親切かなとは思いますがね。

○ **委員** そうですね。ただ、学研さんは「影響」とかも振ってあるのです。

○ **委員長** 普通知っていそうなところまで。

○ **委員** 一方、大修館とかは振っていなかったりするので、なるほどと。

○ **担当** その御指摘もそうなのですけれども、振り仮名の部分や字体の大きさ、あとは絵があったり写真とかというところで、構成上でも少し窮屈に見えるところと、少し余裕があって見やすいところというのは、4社を比べていただくと若干そういったところも感じられるのかなと。

○ **委員** 東京書籍はすごく見やすいなと思いますね。

○ **担当** そうですね。シンプルになっていて、字体のほうも、ぱっと見でも一文一文を広く感じるような。

あと色の見方なんかも、子供たちが見ている中ではかなりそういったところでは影響してくるのかなと。

例えば、大日本の67ページあたりの絵はあまり明るい感じの絵ではない。逆に言うと、大修館の39ページあたりの図とか絵は少し明るい感じであったりというところで、章によって色遣いも違うのですけれども、見やすさというところで見えていくと、今お話があったように、東書の場合には図とかがあまり多くあふれていないので、すっきりした感じには見えるのかもしれませんが。

○ **委員** 性教育がうるさい中で、東書の24ページは男女の絵が出ているのですけれども、男性のほうは下半身もはっきりとこうやって表してしまっただけで大丈夫ですか。ほかの教科書はそこまでは男性は表していないのだけれども、気になる人は気になるのかなと思ったのです。

○ **委員** 検定を通っているから大丈夫ではないですか。

○ **担当** そうですね。それは特に問題はない。

○ **委員** あと東書は、先ほど感染症とおっしゃっていたのですけれども、165ページには手の洗い方で写真で出ているのです。ほかは手の洗い方は出ていないのだけれども、いいのか悪いのか分からないのですけれども、感染症の手の洗い方というのは、東書は165ページに出ています。ほかは手の洗い方ではないですね。

○ **副委員長** さっきSDGsの話がほかの教科書に出ていましたけれども、索引を見るとSDGsが出ているのは2社のように。

あと、LGBTが索引で出ているのは学研だけのようです。別にそれが絶対になければ

いけないということではないと思うのですけれども、道徳とかいろいろなところで話題に出てきていて、索引上では学研だけです。

○ **委員長** いかがでしょうか。ほかに何か、視点は同じでとか。

○ **副委員長** 小学校のときにはがん教育もやっているのです、がんについての記載が医学的に充実しているかどうかとか、そんなことも教育委員会では話題になりました。

○ **委員長** 1年生で、いわゆる性に関わるところをやった後に、思春期とか性とどう向き合うか。性情報への対処と行動などというところが出ていますけれども、順番でいくと東京書籍は28ページです。パソコンやスマートフォンというところが出ていますが、大日本は38ページ、一般的にさらっと流している感があります。大修館が38ページ、自撮り被害とか危険性などもちょっと踏み込んでいます。

大修館は高校のほうで、中学校に下りてきたという経緯があるので、こういうところは詳しいのかなと思います。余計なことを言っただけですね。

10年前ぐらいからだよ。前々回ぐらいから大修館が入ってきた。前は中学校は作ってなかったですよ。

○ **担当** そうですね。

○ **委員長** 学研が52、53ページ、ここもインターネットではということは出ているのですけれども、それほど踏み込んでいない感はありますね。

取り扱う先生の取上げ方によって、ここから引き出していたり、関連づけたりということをやっていきますので、一概にはここだけでは言えません。

あと、東京書籍は輪っかが2つ知恵の輪みたいについているのがリンクで、いろいろどこつながっているとか、そういうのが示されているので、授業ではやらなくても、自分たちで見ていって、おうちで見たりするときには興味深くつながって、どんどん広がって見ていくというところがあるのかなと思います。

では、保健体育はこれぐらいでよろしいでしょうか。

事務局のほう、いかがしますか。

○ **担当** 次の教科に入っても時間ですので、今日はここまでとさせていただきます。

よろしいでしょうか。

○ **委員長** では、今日はここまでということで、本当に進行に御協力いただきましてありがとうございました。結構最初の割にと言っただけは失礼なのですが、皆さんもそれぞれの視点から御意見を出していただいたので、進行するほうとしては非常に助かりました。お礼を申し上げます。

それでは、今日3つ終わりましたので、次回の予定、その他何かございましたら、事務局のほうからお願いします。

○ **担当** ありがとうございます。

次回の予定でございます。会の冒頭に確認させていただきました。7月6日月曜日、時間は本日と同じ18時から、会場も同じくシビックセンター20階の教育委員会室を取ってお

ります。

今回は、本日残りました技術・家庭の技術分野及び家庭分野からのスタートを考えております。続いて国語、国語の書写、数学、できれば外国語（英語）までで第2回の審議を予定しております。技術・家庭、国語、数学、英語の予定でございます。

委員の皆様方には、事前に本日のような調査研究委員会からのまとめを送付させていただきます。事前に御覧いただきますと、審議の進みも本日のように円滑になると存じます。

それぞれ御多用の中ではございますが、誠に恐縮ですが、御協力よろしく願いいたします。長時間にわたり、審議をありがとうございました。皆様から特に何もなければ、本日はここまでとさせていただきます。

○ **委員長** 展示会の意見は次回出てくるということですが、今日やった3教科に関しては、もしあったら振り返って、その場で2回目の最初に入れるということですか。

○ **担当** 今日、皆様からいただいた意見以外で特段特徴的なところがある場合には、事務局のほうからお示しさせていただきます。

○ **委員長** いえ、出た意見をみんなで審議にかけないといけないので、こういう意見が出たけれどもどうですかというのは次回の最初にやればよろしいですか。

○ **担当** お願いいたします。

それでは、本日はここまでとさせていただきます。

ありがとうございました。